

自己表現活動を通して、コミュニケーションへの主体的な態度を養う授業実践

～自己表現活動を機能させるための、段階的なアクティビティーと異学年交流～

1. 設定理由

コミュニケーション能力が重要とされる昨今、これからの外国語活動で、どのようにコミュニケーションへの主体的な態度の育成に迫るかという部分に課題がある。コミュニケーション能力の素地を養っていくことに視点を置き、具体的な手立てを立て、授業を作ることが重要である。

そこで今回、実践の柱として考えたのが「自己表現活動」と「段階的なアクティビティー」である。アクティビティーに自分の思いを含んだ「自己表現活動」の要素を取り入れれば、知りたい、わかりたい、聞きたい、答えたいという気持ちを抱かせることにつながるのではないかと考えた。さらに、限られたコミュニティーにとどまらず、異学年交流という多様なコミュニケーションの場を作ることで、児童のコミュニケーションへの主体的な態度が育つのではないかと考えた。

自己表現活動を機能・充実させるために、段階的なアクティビティーと異学年交流の実践に取り組む。そして児童のコミュニケーションへの主体的な態度の育成、外国語活動への関心・意欲を高めていきたいと考え本テーマに設定した。

2. 研究仮説

外国語活動におけるアクティビティーを4つに分類し段階的に実施すれば、自己表現活動が充実し、英語を介したコミュニケーションへの主体的な態度が育つであろう。

3. 研究内容

- (1) 第1回外国語活動アンケートによって児童の実態を把握
- (2) 自己表現活動を充実させるための段階的アクティビティーの実践と学習効果の分析
(検証授業「夏休みにはどこに行きたいですか」)
- (3) 自己表現活動を高めるための異学年との交流授業の実践と学習効果の分析
(検証授業「好きな教科は何ですか」)
- (4) 第2回外国語活動アンケートで児童の変容を比較・検討

4. 結論

○段階的なアクティビティーや異学年交流で、自己表現活動を効果的に展開すると児童のコミュニケーションへの主体的な態度は育まれる。

→自己表現活動と段階的アクティビティーの実践は、新出表現の習得を高め、児童は伝えたい・知りたいという思いを持つようになり、仲間とのコミュニケーションに楽しさをより感じるようになった。

→異学年交流という普段とは違うコミュニティーの中で思いや考えを交流したことで児童は、共感したり異なることに気づいたりし、会話することを楽しみを感じるようになった。